家族の絆から逃げているのは自分。人と信じ合う姿を、もう一度娘に見せたい

離婚から3年が経ち、ふと思ったのです。「私も娘もよく泣くのは、母子家庭で寂しい思いをさせているせいだと思い込んできた。でも、この子の涙の真の意味は、ママが愛に飢えてそれにもがき、それでも肩肘を張って、寂しさに夜になったら当たり散らして……という、私の姿に対する憤りなんじゃないか」。私は家族の絆を作るという、いちばんにやるべきことから逃げている。私がもう一回人と信じ合う姿を娘に見せたいと、そのとき決心したのです。

それを初めに話したのが当時友人だった今の夫でした。それまでも、仕事の面でも家庭の面でも彼をすごく頼りにしていました。結婚を決めるまでは1週間。ただし、その間は話し合いに話し合いを重ねました。そして娘に頭を下げて再婚したいことを伝えました。娘は猛反対。「また嫌になったら別れるんや、いやや!!」と大泣きし、私は「今度こそは絶対に別れたりしないから、お願いします!」と頭を下げて。私の様子がこれまでと違うと感じたのでしょうか。娘は翌日から彼のことを「パパ」と呼んでくれたのです。

そこからステップファミリーという家族の形がスタートしました。再婚や子連れ再婚をする

(上) 左から樹里ちゃん、貴子さん、花奏(はな)ちゃん、義浩さん。「夫と樹里、私と夫、夫と花奏、樹里と花奏。各自の色を混ぜ合うのではなく、それぞれの1対1の関係を虹のように重ねていくのが家族だと思うんです」

と、「やっぱりあの子は(連れ子だから)あかん」と言われるのが怖くて誰にも相談できなかったり、「拾われた気持ちで幸せにならなあかん」という負い目を持ってしまう方も多く、実際、再婚すると想像もできないところで負い目を持つことがあります。また、パパが娘を叱ると、傍目には彼がちゃんと躾けてくれていると美しい絵に映るのだけど、当事者としては「2人の仲が悪くなったらどうしよう」と心配したり、娘と同じ気持ちになることもある。夫に対して「娘をよく知らんのに言わんといて」と思うときもある。考えもしなかった気持ちが湧き上がってきて、それぞれに葛藤があったと思います。特に娘は当時まだ5歳。なかなか整理ができなかったと思います。

それでも、どうにかしようという思いがいちばん強くて頑張ってくれていたんですよ。七夕のとき、娘が飾った短冊は丸めてあって中に何が書いてあるのかわからなかったんです。親としては気になりますから中をそっと見てみたんです(笑)。そこには「パパごめんね。じゅりもっとがんばるからね」「ママ、うんでくれてありがとう。じゅり、がんばるからね」と書いてあって。娘の気持ちに思わず涙が溢れました。こんな3人が一緒に暮らしていくというのは、どこにも似ていない、「私たち」という家族の在り方。心から誇りに思っているし、かけがえ

元夫の金銭問題がもとで離婚
子供を連れて年下の夫と再婚
し、セメントベビーをもうけ
る。(38歳)

■
何でも自分でやってしまわ
ないで夫に甘える

離婚後、子連れ(小4と中2)
で、子連れ(小5)の5歳年
上の夫と再婚し、現在3年目
(40歳)

■
お互いの『納得』が得られる
ように、解決策は2人で考
える

DVで離婚。現在は10歳の娘
を連れて彼と同居中。娘の進
学に合わせて再来年入籍予定
(36歳)

■
基本的なことですが彼の
健康状態を気遣います

元夫がギャンブルで借金を作
り離婚。その後、未婚の母と
なり、現在16歳年上のエンジ
ニアの夫と再婚。(30代)

■
夫に変わってもらうこと、わ
かってもらうことを待たずに
話す

家庭に対する価値観の違いと
元夫の暴力などが原因で離婚
現在は7歳年上の夫と再婚。
(23歳)

■
子供の意見をいちばん
尊重するようにしている